

地域に強いコミュニティソーシャル ワーカーを養成し標準化する



講師・ファシリテーターもグループワークで学びあい

様々な分野の関係者が連携して、ソーシャルワーカーの養成研修を作り上げ、標準化して、実施する体制の基盤をつくりあげました。

地域福祉部門

● 助成年度
2016～2018年度

● 助成額
1年目 330万円
2年目 540万円
3年目 430万円

● 活動目的

地域共生社会の創造に向け、すべての都道府県において「コミュニティに強いソーシャルワーカー」が養成・育成されるよう、コミュニティソーシャルワーカー養成に関する知見を集約し、福祉業界内で活用できる研修内容、研修方法、さらに共通テキストを作成する。



と説明します。

事業委員会ではまず、すでに実施しているコミュニティソーシャルワーカーの研修や介護支援員、相談支援専門員等の研修プログラムの分析から取りかかりました。

「コミュニティに強いソーシャルワーカーに私もなる！」

2年目には「コミュニティに強いソーシャルワーカーを養成する研修(コン研)」と銘打って、京都、東京、愛知の3ブロックで試行研修を実施しました。

「前年度の成果をもとに研修プログラムとテキストを作成しました。テキストは特に、どの団体でも共通して使えるように留意しました」と、共通化・標準化を強く意識していたことが中島さんの話から伺えます。

「研修はグループワークを中心に据えました。大学の先生が一方的に講義するのではなく、先

地域と繋がれる
ソーシャルワーカーの育成をめざす

日本ソーシャルワーク教育学校連盟は赤い羽根福祉基金の助成を受け、3年間でソーシャルワーカーの養成研修をつくりあげました。

2015年に厚生労働省が発表した「新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン」を皮切りに、国は福祉と地域がつながる必要があるとの方向性を打ち出してきました。しかし、実際に

地域で包括的な支援を担うはずのソーシャルワーカーに関する調査を行うと、養成研修が実施されていない地域も多くあることがわかったのです。こうした背景を受けて、事業委員会副委員長の中島修さんは、

「ソーシャルワーカーの実践力を強化するためには、本連盟だけでなく、学術団体や社会福祉協議会(社協)、職能団体など、産・学が連携してコミュニティに強いソーシャルワーカーの人材育成モデルを構築することが必要だというところで、この助成事業が立ち上がったのです」

つくりあげた独自のスタイルを 広げたい

多様な分野の皆さんに集まっていただきましたが、現場で働く施設の職員の方々が非常に積極的に参加してくださいました。

みんなの知識と経験を、チーム全体で3年間かけてブラッシュアップしたこともあり、ソーシャルワークについて分かりやすいカリキュラムが作成できたと感じています。専門の先生の豊かな知見をもとにしながら、現場の意見と経験を加えてまとめていくスタイルは、一定の到達度に来たのではないかと思います。実際、厚生労働省社会保障審議会の報告書「ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割等について」の中で、コソ研の取り組みが紹介されたという成果も生まれました。

これをテキストとして出版することや、更にブラッシュアップを重ねてより共通的なものとして確立できたらと考えて、現在動いています。

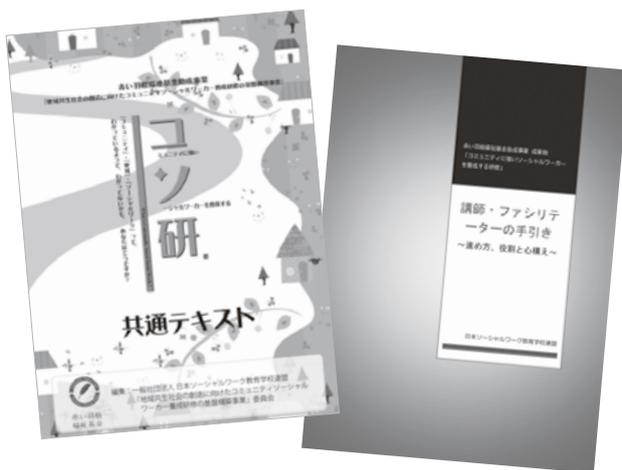


日本ソーシャルワーク教育学校連盟
地域共生社会の創造に向けたコミュニ
ニティソーシャルワーカー養成研修の
基盤構築事業委員会
副委員長 中島修さん

助成プログラム 評価会議委員コメント

教員たちが集まって、かつ現場のワーカーも一緒に議論しながら開発したことは画期的なことです。また、分野横断というキーワードをしっかりと捉え、立場を越えて基本となる考え方や共通言語化をしようとした試みは、とても素晴らしいと思います。

社会福祉法人の地域における公益的な取り組みだけでなく、地域共生社会の実現に向けて、社会福祉法人と養成校が一体となり、コミュニティに強いソーシャルワーカーを養成した結果、その先に何が生まれるかにはタイムラグがありますが、「その地域の課題が解決される」という本当の効果に結びつく、今後の展開に期待しています。



研修内容を検討しながら、共通テキストを開発

コソ研を全国に広げ 質を保つために

生と現場のソーシャルワーカーが協働して研修を進めていくスタイルです。現場の視点や具体的な実践事例をベースにしながら研修を展開し、その都度テキスト内容のブラッシュアップを重ねました」

また、懇親の機会も設け、現場の悩みを共有したり、「コミュニティに強いソーシャルワーカーに私もある！」といった漫画のセリフに似せたキャッチフレーズで参加者同士を身近に感じてもらい、チームとしての決意と団結力を高める工夫もしたそうです。

3年目には熊本、宮城、広島でもコソ研を実施し、共通テキスト及び研修プログラムを確定させました。中島さんは3年間の成果をこう振り返ります。

「研修プログラムの確定だけでなく、新しい講師の養成や、ファシリテーターの手引書も作成しました。研修を受けただけで終わらないように、事前課題や事後課題も用意することができました」

今後は共通テキストを用いた教材を作成して、研修を担う講師を養成する他、共通テキストを書籍として出版することにより、さらなる広がりを作っていくことが期待できます。